

# 演習ガイダンス(2014年度)

2014年4月4日(金)16:40~17:30

経済学研究科棟204 演習室

小野塚 知 二

## はじめに

(1) 世界の大学卒業生の常識(と日本の大学卒業生の非常識)

歴史の有用性ないし戦略性をめぐる感覚の決定的な相違

(2) 自分で課題を決めて、調べ、考え、結論を出すこと

「お勉強」と「研究」(=課題発見+問題解決)の相違

(3) 口頭発表および論文執筆の説得的な技法と能力

初等から高等までの日本の学校教育の最大の弱点の一つ。要するに相手に何を伝えたいか、相手から何を聞き出したいかということ。それに比べれば、英語力とか数学/統計学を使いこなす力とかは枝葉末節の、いわば単なる手段の問題。

## 今年度のテーマ「成長戦略の歴史 —効果と副作用—」について

演習参加者募集要項に記載されているとおりです。詳細は、開講時(4月25日)に案内します。

これは初めてとりあげるテーマですが、その概略の一部は、東大EMPの同窓会誌『EMPower』のインタビューで話しましたので、ご覧になってください\*1。簡単にいうなら、(1)成長戦略とは現在の「アベノミクス」が最初ではないし、過去にさまざまに試みられた成長戦略の効果も千差万別であり、またそこには思わぬ副作用もあったということ振り返ることによって、(2)望ましい成長戦略が一義的に明瞭に定まるわけではなく、常に、政策効果の遅速/持続性や副作用との関係で評価されなければならないということを確認するのが、今年度のテーマの眼目です。それらを通じて歴史をおのれの武器として使いこなす力を養うことにします。

## ゼミと卒論について

せっかく進学しても、講義に出ているだけでは経済学部で自分が何を学んだのかは、卒業して半年もしないうちにほとんど忘れてしまうでしょう。ゼミで討論し、ご自分でテーマを決めて研究し、卒業論文に書いたことは、自分の財産としてあとまで残ります。卒業

---

\*1 [http://emp-office.sakura.ne.jp/tmp/file/EMPowerVol8\\_Final\\_Web.pdf](http://emp-office.sakura.ne.jp/tmp/file/EMPowerVol8_Final_Web.pdf)

後に勉強の効果が残るかどうかという点だけでなく、就職活動の際にも自分でテーマを決めて研究しているということが非常に高く評価された例を最近いくつも耳にしています。経済学部や法学部のように多人数講義が主体の教育を行っているところでは、ゼミで個人研究を進め、卒論を書かなかつたら、大学で学んだ証しを残すのは非常に難しいのです\*2。

ぜひ、おもしろい卒論を執筆することを今後2年間の目標の一つに設定してください。そのために必要な助言と指導は必ずゼミで得られます。自力で何かを調べ、その成果を論理的に表現して、口頭で、また文章で発表するという技法は学生時代に身に付けておけば、どの進路を選んでも非常に役に立ちます。

ゼミについてのわたしの考えは、かつて、以下のインタビューで詳細に述べましたので、参考にしてください。

「新しい大学選び」第3回(洋々・大学別キャンパスライフ、2009年3月)<sup>\*3</sup>

## 個人研究のテーマ選定について

個人研究のテーマは、今年度の演習のテーマに縛られる必要はありません。ご自分の関心のある、研究してみたいテーマを選んでください。ただ、テーマによって、研究のしやすさ／難しさが違います。卒論提出までの20ヶ月ほどで、成果が出せないと困りますから、どんなテーマでも研究できるというわけではありません。テーマを選ぶ際は、まず、関心のあることがらをいくつか、テーマの候補として挙げて、わたしにご相談ください。5月か6月のうちに、とりあえずのテーマを決めてください。その最初の研究成果を秋の合宿で発表してもらい、そこで出された疑問や助言を活かして、冬学期の個人研究報告へ、さらに年度末の小論文(4年次から入る人は卒業論文)に繋げてください。

昨年度の卒論のテーマ、実際のゼミの雰囲気、合宿等については新4年生の諸君にうかがってください。

---

\*2 これは、東大経済学部卒業生のかなりの部分は東大法学部卒業生より優秀ではないかとわたしが考えている根拠で、伊賀泰代氏が『採用基準』(ダイヤモンド社、2012年)の第1章コラムで論じているのとは少し異なりますが、自力で何かを成し遂げる経験の有無という点では通底するところもあるでしょう。

\*3 <http://you2.jp/ao/course-03.htm>